

同一ノ效力ヲ有スル法規ハ第二條以下ニ在ル法律ノ語中ニ包含スルモノトス  
例ヘハ市町村制徵兵令ノ如キハ憲法制定前法律ノ名稱ヲ以テ公布シタルモノ  
ニシテ新聞紙條例違警罪即決例ノ如キハ憲法制定後法律ノ名稱ヲ以テ公布シタル  
モノニアラサルモ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノナリ然レトモ茲ニ注意スヘ  
キハ陸海軍刑法ハ法律ナルモ本條ニ所謂他ノ法律ノ語中ニ包含セサルコト是  
レナリ何トナレハ陸海軍刑法ハ普通刑法ト異ナリ全ク獨立シテ罪別ヲ設ケ刑  
名ヲ定メタル特別法ニシテ普通法トハ何等ノ關係ヲ有セサレハナリ

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テ

ハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規  
定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑	舊刑法ノ刑
死刑	死刑
無期懲役	無期徒刑
無期禁錮	無期徒刑
有期懲役	有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮

有期禁錮	有期徒刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮
罰金	罰金
拘留	拘留
科料	科料

○本條以下第七條マテハ新刑法施行前ニ犯シタル犯罪ニ關スル規定ニシテ本  
條ハ刑法第六條ニ於テ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモ  
ノヲ適用スト規定シタル原則ノ活用ヲ定メタルモノナリ即チ新舊二法ノ輕重  
ハ附加刑ノ有無ニ關セス主刑ノ輕重ニ依リテ之ヲ定ムヘク而シテ舊刑法  
ト新刑法トハ其刑名ヲ異ニスルヲ以テ本條ニ依リ新舊二法ノ主刑ヲ對照シ其  
對照ニ依リテ舊刑法ノ主刑ヲ新刑法ノ主刑ニ改メ以テ新刑法第十條ノ規定ニ  
從ヒ其輕重ヲ定ムヘキモノトス

第三條 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キト

キハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ  
數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シ  
タル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其  
一個ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合  
罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同  
シ

○本條ハ新舊二法ノ輕重ヲ定ムルニ當リテ生スヘキ諸種ノ問題ヲ解決シタル  
モノナリ即チ新舊二法ノ輕重ハ主刑ノ輕重ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノナルモ  
其所謂主刑ハ各本條ニ定ムル法定ノ刑ナルカ將タ總則ノ適用ニ依リ加重又ハ  
減輕ヲ爲シタル後ノ刑ナルカノ問題ニ付テハ第一項ニ於テ加重シタル後ノ刑  
ヲ以テ對照スヘキモノトシ數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ各罪毎ニ刑ノ對照ヲ爲  
スヘキヤ否ヤノ問題ニ關シテハ第二項ニ於テ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規  
定ヲ適用シタル後即チ新刑法ニ付テハ併合罪ノ規定ニ依リ科スヘキ刑ノ範圍  
ヲ定メ得刑法ニ付テハ數罪俱發ノ規定ニ依リ科スヘキ刑ノ範圍ヲ定メタル後  
各其主刑ヲ對照シテ輕重ヲ定ムヘキモノトシ次ニ一罪ニ付キ二個以上ノ主刑  
ヲ併科スヘキトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一個ヲ科スヘキトキハ如何又併合  
罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科スヘキトキハ如何ノ問  
題ニ付テハ第三項ニ於テ便宜上其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲スヘキモ

ノトシタリ而シテ一罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科スヘキトキトハ例ハハ森  
林法ニ掲クル窃盜ノ罪ノ如キ新刑法第二百五十六條第二項ノ罪ノ如キヲ云フ

第四條

刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可

キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴  
アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

○本條ハ親告罪ニ關スル規定ニシテ即チ刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規  
定ニ依リ告訴ヲ待テ論スヘキ罪ヲ犯シタル者ハ新刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要  
セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セサルモノトス故ニ例ハハ脅  
迫罪ノ如キハ新刑法ニ於テ職權訴追ノ罪ト爲シ致テ舊刑法ノ如ク告訴ヲ要セ  
サルモノトシタルモ新刑法施行前ニ犯サレタル脅迫罪ニ付テハ依然告訴ヲ待  
タサルヘカラス蓋シ然ラサレハ當事者ノ豫期ニ反シ嚴ニ失スルノ虞アルヲ以  
テナリ

第五條

刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ

剝奪公權停止公權監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス

○本條ノ規定ヲ設ケタルハ剝奪公權等ノ附加刑ハ新刑法ニ於テハ全ク之ヲ廢

第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判  
アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例  
ニ依ル

一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト  
雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト  
餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル  
法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト  
餘罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

○本條ハ刑法施行以前ニ犯シタル罪ガ確定裁判ト爲リタル他ノ罪ニ對シテ餘  
罪ノ關係ヲ有スル場合ニハ如何ニ處分スヘキヤヲ定メタルモノニシテ第一號  
ハ刑法施行前ノ罪ニ付キ確定判決ヲ以テ舊刑法ノ刑ヲ旨減シタル場合ヲ規定  
シ第二號ハ同ク刑法施行前ノ罪ニ付キ確定判決ヲ以テ新刑法ノ刑ヲ旨減シタ

ル場合ヲ規定シタリ一證明瞭ナルヲ以テ說明ノ要ナシ

第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑

ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法  
ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレ  
タル者

二 舊刑法又ハ他ノ法律ニヨリ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト  
同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ  
懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニヨリ處斷セラ  
レタル者ニ之ヲ準用ス

○本條ハ刑法施行前ニ犯シタル罪ガ既ニ確定裁判ヲ經タル他ノ罪ニ對シ再犯  
ノ關係ヲ有スル場合ニ於テ其再犯ノ罪ニ付キ裁判ヲ爲スニ當リ如何ニシテ對  
照刑ヲ定ムヘキヤヲ規定シタルモノナリ

**第八條** 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

○本條ハ刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪ト競合シタル場合ノ處分法ヲ定メタルモノナリ

**第九條** 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニヨリ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

○本條ハ刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪ト競合シタル場合ノ處分法ヲ定メタルモノナリ本條ヲ特ニ前條ヨリ分離シタルハ刑法施行前ニ犯シタル罪ガ數個アルトキハ一個ニ止マル場合ノ如ク單純ナル處置ニ出ルコト能ハサレハナリ

**第十條** 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

○本條ハ刑法施行前ニ犯シタル罪ガ刑法施行後ニ犯シ且確定裁判ヲ經タル罪ニ對シ餘罪ノ關係ヲ有スル場合ノ處分法ヲ定メタルモノナリ

**第十一條** 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

○本條ハ刑法施行前ニ犯シ且刑法施行後ニ至リテ確定裁判ヲ經タル罪ニ對シ  
刑法施行後ニ犯シタル罪ガ餘罪ノ關係ヲ有スル場合ノ處分法ヲ定メタルモノ  
ナリ

**第十二條** 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル

罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

**第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス**

○本條ハ確定裁判ニ依リ舊刑法ノ刑ノ管渡ヲ受ケタル者ガ刑法施行後再犯ヲ  
爲シタル場合ニ關スル處分法ヲ定メタルモノナリ

**第十三條** 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレ

タル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但  
罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於  
テハ檢事ノ請求ニヨリ裁判所決定ヲ以テ其言渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例  
ニヨリ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及  
ヒ時効ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

○本條ハ舊刑法及新律綱領改定律例等舊律ノ刑ニ處セラレタル者ニ對シテ新  
刑法施行ニ亙リ其刑ノ執行ヲ爲スヘキトキハ其執行及ヒ假出獄時効等ニ付テ  
ハ新刑法ノ規定ヲ準用スヘキ旨ヲ定メタルモノナリ

**第十四條** 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ

付テハ網法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

○本條ハ刑法施行前ノ罪ニ付刑法施行後ニ於テ之ヲ裁判スルニ當リ舊刑法ノ  
刑ヲ輕シトシ新法ヲ適用セサル場合ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ新刑法ノ規  
定ヲ準用シ恩典ニ浴セシムヘキ旨ヲ定メタルモノナリ

**第十五條** 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者

ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレ

タル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

○本條ハ新刑法施行以前ニ假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ便宜上新刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用シ又刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ換刑處分ニ附シタルモノハ其處分ヲ存續セスシテ勞務場ノ留置トシテ之ヲ取扱フヘキ旨等ヲ定メタルモノナリ

**第十六條** 懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

○本條ハ懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フヘキ旨ヲ定メタルモノナリ故ニ新刑法ニ於テハ懲治場留置ノ言渡ハ之ヲ廢止シタルモ舊刑法ニ依リ其言渡ヲ受ケ新刑法施行ノ際現ニ留置場ニ在ル者ハ施行後モ施行前ト同シク留置ノ執行ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ

**第十七條** 闕席判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

○本條ハ欠席判決ニ依ル刑ノ時効期間ノ起算點ヲ定メタルモノナリ

**第十八條** 剝奪公權停止公權監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

附加ノ罰金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ  
○本條ハ判決ニ依テ科セラレタル附加刑ノ效力ヲ失フコトヲ定メタルモノニシテ新刑法ガ沒收以外ノ附加刑ヲ廢止シタル結果ナリ

**第十九條** 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權停止公權監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

○本條ハ刑法以外ノ刑罰法規ニ定メタル主刑ノ刑名ノ變更及ヒ附加刑等ニ關スル規定ナリ

**第二十條** 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但

他ノ法律中特ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中  
期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

○本條ハ刑法以外ノ刑罰法規ニ定メタル刑ニ付テハ前條ノ規定ニ依リ刑名ノ  
ミハ之ヲ變更スルモ其刑期金額ハ之ヲ變更セサル旨ヲ定メタルモノナリ然ラ  
サレハ錯雜ヲ生シ且當初ノ立法旨趣ヲ没却スル虞アルヲ以テナリ

**第二十一條** 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ

**第二十三條**ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニヨル

○本條ハ刑法以外ノ刑罰法規ニ定メタル刑ノ加重減輕ニ關スル規定ナリ別ニ  
說明ノ要ナシ

**第二十二條** 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若

クハ之ニヨラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル  
規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

○本條ハ特別法中舊刑法ノ規定ヲ援用シタルモノニ付テハ其舊刑法ノ規定ナ  
之ニ相當スル新刑法ノ規定ニ變更スルコトヲ定メタルモノナリ例ハ未タ送

ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷スト規定シタル郵便法第五十五條  
刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷スト規定シタル爆發物取締罰則第十  
二條ノ如キ然リ

**第二十三條** 前條ノ規定ニヨリ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ

法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ  
付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ從フ

○本條モ別ニ說明ノ要ナシ只他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ヲ例示  
スレハ郵便法第五十一條工場抵當法第五十條ノ如キ然リ

**第二十四條** 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十

九號ハ之ヲ廢止ス

○明治二十二年法律第二十八號ハ職員ノ保護ニ關スル規定ニシテ明治二十三  
年法律第九十九號ハ屋外竊盜ニ關スル規定ナリ

**第二十五條** 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト同一  
ノ效力ヲ有ス

一 第二編第三章第五節

- 二 第一百九十八條乃至第二百零二條
- 三 第二編第四章第七節及第九節
- 四 第二編第五章第三節
- 五 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

○本條ハ舊刑法中當分ノ内效力ヲ有セシメント欲スルモノヲ列記シタルモノナリ私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪等本條ニ列記シタルモノハ新刑法ハ之ヲ特別法ニ讓ルノ旨趣ニ依リ法典中ニ其規定ヲ設ケサルモ特別法ハ未タ制定セラレサルヲ以テ本條ヲ設ケタルナリ

**第二十六條** 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

- 一 軍機保護法ニ掲ケタル罪
- 二 徵兵令ニ掲ケタル罪
- 三 明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪
- 四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪

- 五 船舶法ニ掲ケタル罪
- 六 船員法ニ掲ケタル罪
- 七 船舶職員法ニ掲ケタル罪
- 八 船舶検査法ニ掲ケタル罪
- 九 戶籍法ニ掲ケタル罪
- 十 郵便法ニ掲ケタル罪
- 十一 舊刑法中印紙ノ偽造變造及ヒ其知情使用ニ關スル罪

○本條ハ特別法中刑法第二條ノ例ニ從ハシムヘキ犯罪ヲ列記シタルモノナリ蓋シ本條ノ規定ナクハ帝國外ニ於テ本條列記ノ罪ヲ犯スモ處罰スルコト能ハサルヲ以テナリ

**第二十七條** 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ

- 一 著作權法ニ掲ケタル罪
- 二 重要物產同業組合法ニ掲ケタル罪
- 三 移民保護法ニ掲ケタル罪



○本條ハ刑法第三條ノ例ニ依ラシムヘキ犯罪ヲ列記シタルモノナリ  
**第二十八條** 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更ヲ受ケサル旨ヲ定メタルモノニシテ例ハ重罪ヲ犯シタル者ハ判事又ハ檢事ニ任スルコトヲ得ストノ裁判所構成法ノ規定ハ新刑法ニ於テハ重罪輕罪違警罪ノ區別ヲ認メサルモ尙ホ其效力ヲ有スルカ如シ然ラハ新刑法ノ如何ナル刑ヲ舊刑法ノ重罪輕罪等ニ相當スルヤハ次條以下ノ規定ニ依リテ明カナリ只本條以下第三十七條ニ至ルマテハ第三十二條ヲ除ク外刑法規ニ關スル規定ニアラスシテ人ノ資格又ハ手續等ヲ定メタル法規ニ關スルモノナルコトヲ注意スヘシ

**第二十九條** 死刑無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス  
**第三十條** 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス

前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス  
前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス  
前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

**第三十一條** 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス  
**第三十二條** 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑無期又ハ短期六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○本條ハ新刑法施行前ニ公布シタル舊刑法以外ノ刑罰法規中ニ於テ定メタル重罪ノ未遂犯ヲ新刑法施行後ニ於テモ處罰セシカ爲ニ設ケタルモノナリ  
**第三十三條** 死刑無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者

刑罰ニ該當セサル罪ト看做ス  
前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス  
前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス

刑罰ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
○本條ハ新刑法施行前ニ公布シタル舊刑法以外ノ刑罰法規中ニ於テ定メタル重罪ノ未遂犯ヲ新刑法施行後ニ於テモ處罰セシカ爲ニ設ケタルモノナリ

刑罰ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス  
○本條ハ新刑法施行前ニ公布シタル舊刑法以外ノ刑罰法規中ニ於テ定メタル重罪ノ未遂犯ヲ新刑法施行後ニ於テモ處罰セシカ爲ニ設ケタルモノナリ

ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看  
做ス

第三十四條 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル  
者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス  
前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス

第三十五條 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他  
ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス  
六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ  
重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ  
輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁  
錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又

ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看  
做ス

第三十七條 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲  
メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十  
一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ効力  
ヲ有ス

第三十八條 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク改ム

第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

- 一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年
- 二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年
- 三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年
- 四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年
- 五 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年

六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第三十九條 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

第三 區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ

第四十條 刑事訴訟法第二百五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

第四十一條 刑事訴訟法第二百二十六條第一項中「刑法第八十條ニ從ヒ罰金ヲ四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改メ同條第二項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第三百三十八條中「刑法第七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金

又ハ科料」ニ改ム

同法第四百四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十二條 刑事訴訟法第六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル  
被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ

第四十三條 刑事訴訟法第七十二條ヲ左ノ如ク改ム

第七十二條 檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 刑事訴訟法第二百三十六條中「輕罪、重罪」ノヲ削ル

第四十五條 刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ如ク改ム

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲ス可シ檢事

ノ請求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ

取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 刑事訴訟法第二百六十四條中更ニ重罪事件トシテ裁判ス可

キ旨ノ決定ヲ爲シテ削ル

第四十七條 刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ノ執行ハ其重キモノヲ先ニス

但特別ノ事由アルトキハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行

ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之

ヲ爲ス可シ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄

ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタトキハ司

法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懐胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令

アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ニ一項ヲ加フ

懲役禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ

ハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ

二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル處アルトキ

三 受胎後七月以上ナルトキ

四 分娩後一月ヲ經過セサルトキ

刑法附錄 刑法施行法大要

第五十條 刑事訴訟法第三百二十條中之ヲ爲ス可シノ下ニ刑ノ執行ノ停止ニ付キ亦同シヲ加ヘ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ徵收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 刑事訴訟法第二十四條第六十三條第六十八條第七十三條及ヒ第七十四條但書ハ之ヲ削ル

○第三十八條ヨリ本條マテハ新刑法ノ實施ニ付キ必要ナル限度ニ於テ刑事訴訟法中ノ規定ヲ改メタルモノナリ

第五十二條 刑事訴訟法中復權及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

○本條ヲ設ケタルハ大權事項ニ屬スル恩赦ハ刑法中ニ規定スヘキモノニアラストシテ之ヲ削除シタル結果ナリ

第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ

決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第五十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其効力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

第五十六條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得 上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其

裁判所ニ請求ヲ爲ス可シ 前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ

決定ヲ爲ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 第五十三條及ヒ前條ノ裁判及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケケタルモノト看做ス

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還附スル言渡ヲ爲スコシ

第六十二條 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス

- 一 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑定人及ヒ通事ニ給與ス可キ日當旅費及ヒ止宿料

- 二 第六十六條ニ記載シタル費用

第六十三條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍内ニ於テ豫審判事受

託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

- 一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス

- 二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金三十錢乃至金五圓

第六十四條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢乃至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付キ金二十錢乃至金一圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルトキニ非サレハ之ヲ給與セス

第六十五條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セス

第六十六條 鑑定通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第六十七條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トス

○第五十三條以下ハ或ハ刑事訴訟法中ノ欠陥ヲ補足シ或ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ニ關スル手續ヲ改メ或ハ刑法附則廢止ノ結果訴訟手續ニ關スル規則ヲ設ケタルモノニシテ則ニ說明ヲ要スヘキ疑義ノ箇所ナシ

附則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

刑法講義附錄終

刑法試驗問題

第一問	刑法ノ意義如何	一九
第二問	刑罰權ノ基本如何	三〇
第三問	刑法ノ土地ニ對スル效力如何	三五
第四問	刑法ノ支配ヲ受ケサル者如何	八六
第五問	帝國內ニ於テ犯シタル犯罪トハ何ソヤ	八七
第六問	外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ハ同一行為ニ付キ帝國ニ於テ更ニ處罰スルコト能ハサルヤ否	一四
第七問	時ニ關スル刑法ノ效力如何	二二
第八問	刑法ト特別法トノ關係如何	三六
第九問	刑トハ何ソヤ	三八
第十問	刑罰ノ目的如何	四一
第十一問	刑ノ種類及ヒ其輕重如何	四六
第十二問	死刑執行ノ方法如何	四六
第十三問	罰金ノ最高額ヲ定メサル所以如何	六四
第十四問	罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ノ處分如何	七五
第十五問	附加刑ノ性質如何	八一
第十六問	犯罪行為ヲ組成シタル物トハ何ソヤ	九一
第十七問	犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物トハ何ソヤ	九四
第十八問	犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物トハ何ソヤ	九七

第十九問	犯罪行為ヲ組成シタル物ト犯罪行為ヨリ生シタル物トノ區別如何	一九六
第二十問	未決拘留ノ日數ハ之ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得ルヤ否	二〇九
第二十一問	刑期ノ起算點如何	二一五
第二十二問	刑ノ執行猶豫トハ何ノヤ又此法制ヲ設ケタル所以如何	二二〇
第二十三問	刑ノ執行ヲ猶豫スルコトヲ得ル場合如何	二二四
第二十四問	罰金ニ處セラレタル者ハ刑ノ執行猶豫ヲ受ケルコトヲ得サルヤ否	二二七
第二十五問	刑ノ執行猶豫ノ再渡ヲ取消スヘキ場合如何	二三一
第二十六問	刑ノ執行猶豫ノ効力如何	二三六
第二十七問	假出獄トハ何ノヤ又之ヲ刑法ニ規定シタル所以如何	二三八
第二十八問	假出獄許可ノ條件如何	二三九
第二十九問	假出獄ノ取消原因及ヒ其効力如何	二四三
第三十問	假出獄ヲ許ス場合如何	二四七
第三十一問	時効トハ何ノヤ又之ヲ設ケタル理由如何	二四九
第三十二問	時効ノ効力如何	二五〇
第三十三問	時効完成ノ期間及ヒ其起算點如何	二五五
第三十四問	時効ノ中斷トハ何ノヤ又其原因如何	二五七
第三十五問	法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行為トハ何ノヤ又之ヲ罰セサル所以如何	二六一
第三十六問	正當防衛トハ何ノヤ又正當防衛ニ出テタル行為ヲ罰セサル所以如何	二七〇
第三十七問	正當防衛ノ成立條件如何	二七一
第三十八問	本夫其妻ノ姦通ヲ撞見シタルトキハ防衛權ヲ行フコトヲ得ルヤ否	二七八

第三十九問	妻カ夫ノ姦通ヲ撞見シタルトキハ防衛權ヲ行フコトヲ得ルヤ否	二七九
第四十問	防衛ノ程度ヲ超エタル行為ニ對スル責任如何	二八四
第四十一問	緊急狀態ニ基ツク行為トハ何ノヤ	二八五
第四十二問	緊急行為ノ條件如何	二八六
第四十三問	緊急行為ヨリ生シタル害其避ントシタル害ノ程度ヲ超タルトキハ其責任如何	二九三
第四十四問	緊急行為ニ基ク無責任ニハ例外ナキヤ否	二九四
第四十五問	緊急行為ハ何故ニ之ヲ罰セサルカ	二九七
第四十六問	緊急行為ト正當防衛トノ異ナル點如何	三〇二
第四十七問	行為トハ何ノヤ	三〇五
第四十八問	意思ノ實行ト結果トノ關係如何	三〇八
第四十九問	犯意トハ何ノヤ又其必要條件如何	三一四
第五十問	犯意ノ種類如何	三一八
第五十一問	過失トハ何ノヤ	三二二
第五十二問	罪本重クシテ犯ストキ知ラサル者トハ何ノヤ又其責任如何	三二四
第五十三問	法律ヲ知ラスシテ犯シタル者ノ責任如何	三二五
第五十四問	犯罪ノ主体及ヒ客体トハ何ノヤ	三二七
第五十五問	心神喪失者及ヒ心神耗弱者トハ何ノヤ又其責任能力ノ有無如何	三二八
第五十六問	大酒シテ泥酔申罪ヲ犯シタル者ノ責任如何	三三〇
第五十七問	刑事上ノ責任年齡ニ關シテ刑法ト新刑法トノ異ナル點如何	三三二
第五十八問	自首者トハ何ノヤ又自首者ノ責任如何	三三五



第五十九問	犯罪ノ決心陰謀準備着手及ヒテ行トハ何ソヤ	三四〇
第六十問	未遂犯トハ何ソヤ又其條件如何	三四六
第六十一問	不作爲犯ニシテ未遂犯ナル場合アルヤ否	三五〇
第六十二問	中止犯トハ何ソヤ又其條件如何	三五四
第六十三問	併合罪トハ何ソヤ又其條件如何	三六一
第六十四問	併合罪中二個以上ノ右期ノ懲役又ハ併罰ニ處スヘキ罪アルトキハ如何ニスヘキカ	三七〇
第六十五問	罰金ト他ノ刑トハ併科スヘキヤ否	三七三
第六十六問	併合罪中重キ罪ニ沒收ナクシテ他ノ罪ニ沒收アルトキハ如何ニスヘキカ	三七四
第六十七問	併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ如何ニスヘキカ	三七五
第六十八問	併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ如何ニスヘキカ	三七七
第六十九問	一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レタル者トハ何ソヤ又此場合ノ處分方法如何	三八〇
第七十問	連環シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ル、モノトハ何ソヤ又其處分方法如何	三八三
第七十一問	累犯トハ何ソヤ又併合罪トノ區別如何	三八五
第七十二問	再犯例ヲ適用スヘキ場合如何	三八七
第七十三問	再犯加重ノ分量如何	三九二
第七十四問	裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ如何ニスヘキカ	三九四

第七十五問	共犯トハ何ソヤ又其條件如何	三九七
第七十六問	正犯トハ何ソヤ	四〇〇
第七十七問	教唆者トハ何ソヤ教唆者ヲ教唆シタル者ノ責任如何	四〇四
第七十八問	被教唆者ノ過剰犯行ニ對スル教唆者ノ責任如何	四〇九
第七十九問	教唆未遂ノ場合ニ於ケル責任如何	四一二
第八十問	從犯トハ何ソヤ	四一四
第八十一問	教唆者及ヒ從犯ハ常ニ必ス之ヲ罰スヘキカ	四一九
第八十二問	共犯者ノ身分關係ニ關スル法則如何	四二〇
第八十三問	酌量減輕トハ何ソヤ	四二四
第八十四問	法律ニ依リ別ニ減輕スヘキ數個ノ原由アル片ハ一個毎ニ之ヲ減輕スヘキヤ否	四二七
第八十五問	同時ニ刑ヲ加重減輕スヘキトキハ如何ニスヘキカ	四三五
第八十六問	犯罪ノ普通構成條件及ヒ特別構成條件トハ何ソヤ	四三八
第八十七問	内亂罪ノ構成條件如何	四五二
第八十八問	外國ニ通謀シテ帝國ニ對シテ戰端ヲ開カシメタル罪ノ構成條件ヲ擧ケテ之ヲ解説スヘシ	四六三
第八十九問	軍隊ヲ敵國ニ交付シタル者トハ何ソヤ又其處分如何	四六八
第九十問	間諜罪ノ成立條件ヲ擧ケテ之ヲ説明スヘシ	四七四
第九十一問	暴行及ヒ脅迫トハ何ソヤ	四八二
第九十二問	外國ニ對シ私ニ戰闘ヲ爲ス罪ノ構成條件ヲ擧ケテ之ヲ説明スヘシ	四八九
第九十三問	局外中立ノ命令ニ違背シタル罪ノ成立條件ヲ擧ケテ之ヲ説明スヘシ	四九一

第九十四問	官吏ニ對スル侮辱罪アリヤ若シ有リトセハ其構成條件ヲ示セ……………	四九四
第九十五問	公務員ノ職務執行ヲ妨害スル罪ノ成立條件ヲ舉ケテ之ヲ説明スヘシ……………	四九六
第九十六問	公務員ヲシテ適法ニ爲スヘキ處分ヲ爲サシムル爲メ又ハ爲スヘカラサル處分ヲ爲サ、ラシムル爲メ暴行脅迫ヲ加ヘタル者ノ處分如何……………	五〇三
第九十七問	囚人逃走罪ノ成立條件及ヒ其刑罰如何……………	五〇九
第九十八問	被拘禁者ヲ奪取シタル罪ノ成立條件如何……………	五一四
第九十九問	逃走罪ノ既遂未遂如何……………	五二〇
第一百問	犯人藏匿ノ罪トハ何ソヤ……………	五二二
第一百一回	證據隠滅ノ罪トハ何ソヤ……………	五二五
第一百三問	騷擾ノ罪トハ何ソヤ……………	五三〇
第一百四問	放火罪ノ成立條件及ヒ既遂未遂ノ分界如何……………	五三五
第一百五問	領火ヲ妨害シタル罪ノ成立條件如何……………	五五〇
第一百六問	失火ノ罪ノ成立條件如何……………	五五五
第一百七問	道路橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シタル罪ノ成立條件ヲ舉ケテ之ヲ説明スヘシ……………	五七一
第一百八問	人ノ住所ヲ侵ス罪ノ成立條件ヲ舉ケテ之ヲ説明スヘシ……………	五八二
第一百九問	信書開披罪ノ成立條件如何……………	五八八
第一百十問	陰私漏告罪ノ成立條件如何……………	五九一
第一百十一問	阿片煙ニ關スル罪ヲ設ケタル所以如何……………	五九三
第一百十二問	水道ニ由ル飲料水ヲ汚穢シタル罪ノ成立條件如何……………	六〇〇
	行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ偽造シタル罪ノ成立條件ヲ舉	

第九十三問	ケテ之ヲ説明スヘシ……………	六〇五
第九十四問	貨幣ノ偽造變造トハ何ソヤ……………	六〇六
第九十五問	内國ニ流通スル外國ノ貨幣トハ何ソヤ……………	六一一
第九十六問	偽造變造ノ貨幣ヲ取得シタル者ノ罪如何……………	六一三
第九十七問	貨幣取得ノ後其偽造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シタル者ノ處分如何……………	六一五
第九十八問	行使ノ目的ヲ以テ文書ヲ偽造シタルモノトハ何ソヤ……………	六二二
第九十九問	公務員又ハ公務員ノ作ル可キ文書圖畫トハ何ソヤ……………	六二四
第一百問	文書ノ偽造變造トハ何ソヤ……………	六二五
第一百一回	公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書ヲ作りタルトキハ文書偽造罪ヲ以テ論スヘキヤ否……………	六三〇
第一百十二問	公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル罪ノ成立條件ヲ舉ケテ之ヲ説明スヘシ……………	六三一
第一百十三問	右價證券ノ偽造又ハ變造シタル罪ノ成立條件ヲ舉ケテ之ヲ説明スヘシ……………	六四二
第一百十四問	印章ヲ變造シタル者ノ責任如何……………	六四九
第一百十五問	偽證罪ノ成立條件如何……………	六五四
第一百十六問	誣告罪ノ成立條件如何……………	六五九
第一百十七問	公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者トハ何ソヤ……………	六六一
第一百十八問	強姦罪ノ成立條件如何……………	六六六
第一百十九問	女子ヲ強姦罪ノ正犯タル場合アリヤ否……………	六六九
第一百二十問	淫行勸誘罪ノ成立條件如何……………	六七二

第三百三十問	姦通罪ノ成立條件如何……………	六七四
第三百三十一問	重婚罪ノ成立條件如何……………	六七六
第三百三十二問	賭博罪ノ成立條件如何……………	六七八
第三百三十三問	博戲ノ賭事トノ區別如何……………	六八〇
第三百三十四問	宮儀トハ何ノヤ又賭博トノ區別如何……………	六八四
第三百三十五問	職權ヲ濫用シテ人ヲ逮捕監禁シタル罪ノ成立條件如何……………	六九三
第三百三十六問	收賄罪ノ成立條件ヲ舉ケテ之ヲ説明スヘシ……………	六九八
第三百三十七問	殺人罪ノ成立條件ヲ舉ケテ之ヲ説明スヘシ……………	七〇二
第三百三十八問	直系尊屬ヲ殺シタル罪ノ成立條件ヲ説明スヘシ……………	七〇五
第三百三十九問	自殺ニ關スル罪ノ成立條件ヲ説明スヘシ……………	七〇七
第三百四十問	人ノ身體ヲ傷害シタル罪ノ成立條件如何……………	七一〇
第三百四十一問	傷害罪ニ付共犯ノ例ニ依リ處分スヘキ場合如何……………	七一五
第三百四十二問	婦女自ラ墮胎シタル罪ノ成立條件如何……………	七一九
第三百四十三問	老若幼者等ヲ遺棄シタル罪ノ成立條件如何……………	七二四
第三百四十四問	不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者トハ何ノヤ……………	七二八
第三百四十五問	人ヲ脅迫シタル罪ノ成立條件如何……………	七三〇
第三百四十六問	器具及ヒ誘拐トハ何ノヤ……………	七三四
第三百四十七問	結婚ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ノ責任如何……………	七三九
第三百四十八問	事實ヲ摘示シテ人ノ名譽ヲ毀損シタル罪ノ成立條件如何……………	七四二
第三百四十九問	竊盜罪ノ成立條件ヲ舉ケテ之ヲ説明スヘシ……………	七四九

第三百五十問	強盜罪ノ成立條件ヲ舉ケテ之ヲ説明スヘシ……………	七五二
第三百五十一問	強盜婦女ヲ強姦シタル罪ノ既遂未遂如何……………	七五八
第三百五十二問	自己ノ財物ハ盜罪ノ目的物タルコトヲ得ルヤ否……………	七五九
第三百五十三問	詐欺取財ノ罪ノ成立條件如何……………	七六三
第三百五十四問	恐喝取財ノ罪ノ成立條件如何……………	七六八
第三百五十五問	恐喝取財ト強盜トノ區別如何……………	七六九
第三百五十六問	自己ノ占有スル他人ノ物ヲ橫領シタル罪ノ成立條件如何……………	七七二
第三百五十七問	贓物ノ收受運搬寄藏故買又ハ牙保トハ何ノヤ……………	七七六
第三百五十八問	自己ノ物ヲ損毀又ハ偽害シタル爲メ犯罪ヲ構成スル場合如何……………	七八一

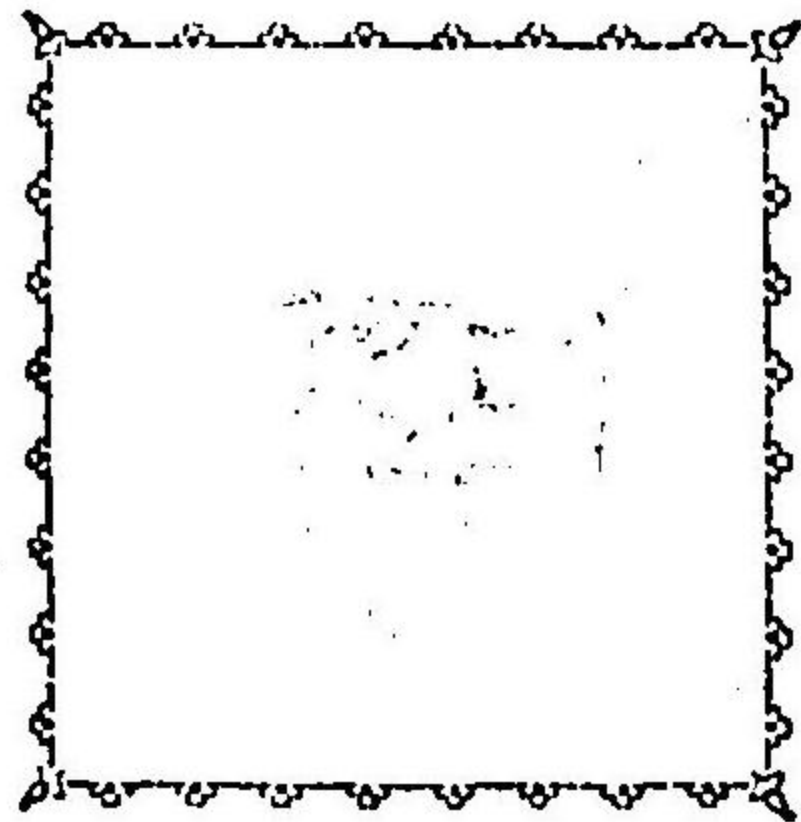
法試驗問題終

明治四十一年九月二十七日印刷  
明治四十一年十月一日發行

改正刑法講義附

定價金壹圓

【有所權著作】



著	者	山	田	正	賢
發	行	武	田	福	藏
發	行	富	田	能	次
印	刷	河	野	圭	藏

大坂市東區南久太郎町四丁目八十六番地  
大坂市東區南久太郎町四丁目八十六番地  
東京市神田區美土代町三丁目一番地  
大坂市西區立賣堀北道三丁目一番地

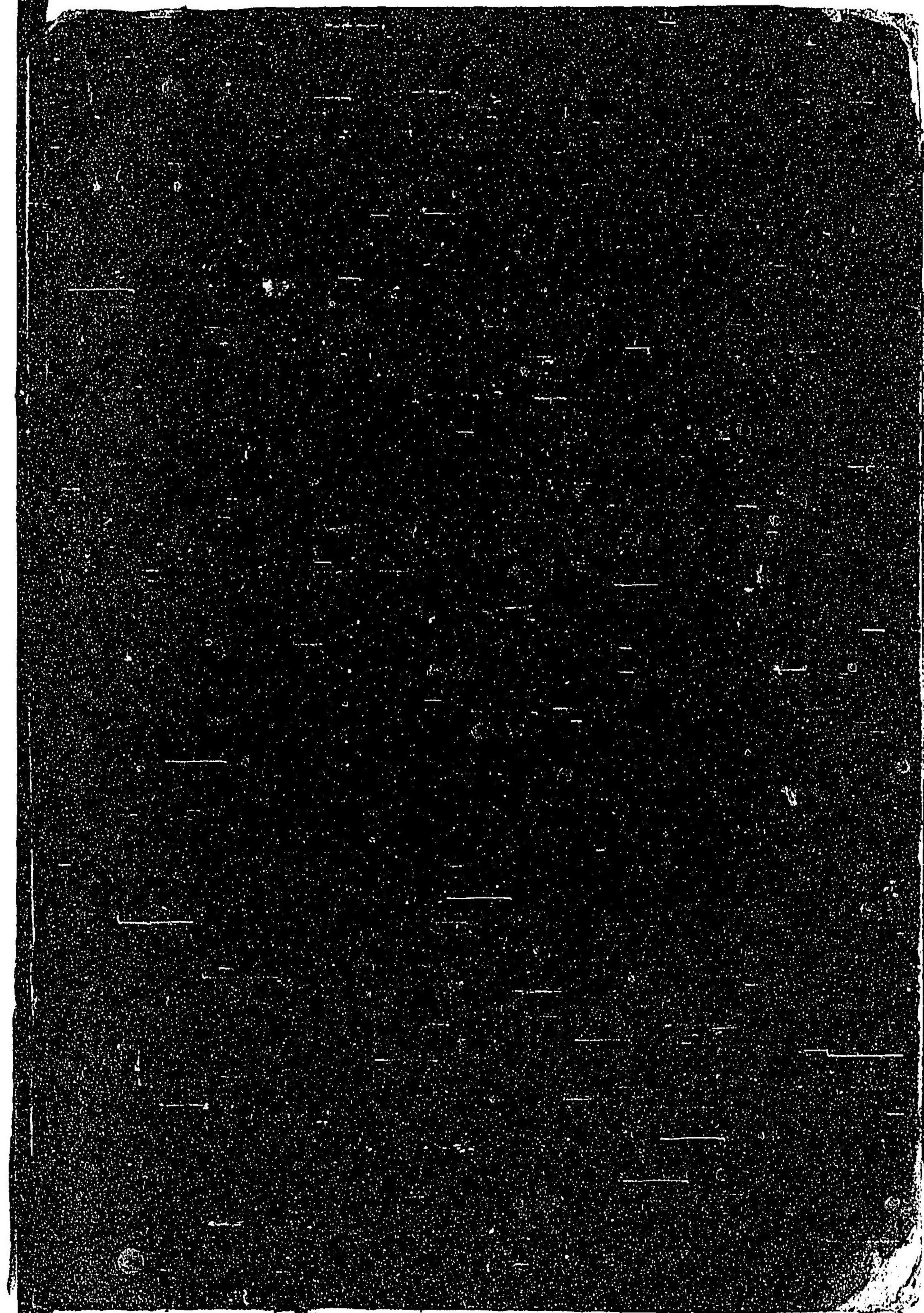
# 發行所

大坂市東區南久太郎町  
四丁目八十六番地  
東京市神田區美土代町  
三丁目一番地

武田交盛館  
富田文陽堂

90

234



90  
234

035504-000-7

90-2341

改正刑法講義 附, 施行法講義

山田 正賢/著

M41

BBP-0044



